

あなたの声をお寄せください

ご意見、ご感想、ご要望など「あなたの声」をお寄せください。

皆様から頂戴したご意見等は、ご本人様のご了承を得た上で、内容に応じて紹介させていただきます。

クールビズってなあに？

先日用事があって久しぶりに三沢市役所に行ったときのことですが、建物内に入ると廊下を歩いてみると何か違和感を覚えました。よく見ると市の職員と思われる人達の服装がカジュアルで、職員なのか来庁者なのか私には区別がつかないのです。ノーネクタイやポロシャツ、カジュアルなズボンを着いて、その日は肌寒かったこともあって、その上から上着ではなシジャンパーや作業服などを着ている職員とおぼしき人達がいいます。

「クールビズ」はそもそも、地球温暖化防止のために、夏のオフィスの冷房設定温度を押し上げて節電して、二酸化炭素の排出量を減らすのが狙いで、ノーネクタイやノー上着を中心とした夏のビジネス用の軽装を指したものです。「クールビズ」というのは理解はしますが、暑さが厳しい日ならばいざ知らず、肌寒い日には、ただだらしのない格好にしか見えません。果たして今の状況は、市役所を訪れる人や市民に違和感や不快感を与えていないものでしょうか。

◆ そういえば、三沢市議会が本会議にクールビズを導入、県内10市で最後の新聞記事を読みましたが、その記事の中で、市長のコメントとして「（ノーネクタイは）楽でいいな」とありましたが、確かに気持ちちは分かりますが、

◆ また広報6月号には、市の財政状況が公表され、国や県からの支出金等の補助金的性格の金額が約58%で、公共施設の使用料や保育所の入所負担金が16・2%、市民が負担し、市が自由な裁量で使える税金が18・6%となっています。

◆ 小さなお子さんがいる家庭には、本当に待遠しい施設である子ども館が来年の4月には完成し、使用料が無料という事が報道されていました。

三沢市は、お金持ち？

◆ 最近のテレビは、スィッチを押すと、森友学園と加計学園や日大の問題が賑やかである。そもそも、いったい誰が何をして何が悪いのかがよくわからないで、『週刊文春』がスクープした週刊雑誌で指摘されたことをとらえて、公共の電波を使いまた国民の税金を使い国会で議論している。どうかしていていると思うが、いかがでしょうか？

三沢市の将来

◆ 述した子ども館の使用料無料化や建物リフォーム等事業費補助金等など、市民にとって耳触りの良い事は目に見えますが、自主財源の少ない当市にとって他の市民サービスに支障が出てきているのではないかと心配です。（心配する市民）

◆ さて、我が三沢市について、いま、市民から『三沢市の将来を迎える準備は不十分である』という沢山の意見が出てきた。特に、

三沢のために

◆ 新潟市で起きた小2の女児が下校途中につれさられ殺害された事件や見守りをしているはずの大人が、連れ去り殺害をするなど、

◆ 今、子供たちが誰を信じて、どうすればいいのか？わからない時代を感じる。さて、松園町内の交差点に立ち毎朝ボランティアで誘導員をしている鈴木重正さんを見かけた。ご苦労様と頭が下がる。このような行動をさせたのは、大人の責任として鈴木さんの本能が自然に湧き出たと思う。人のために役に立つが体に染みついた政治家の心を持った人であると感じた。このような方が、今の三沢に必要なと思う。鈴木さんには、風邪などひかずに体調を崩さないように願う。（しげまさ応援隊）

あなたの声をお寄せください
FAX : 0176-58-7355
ホームページ
http://www.suzukishigemasa.com/
(討議資料)



鈴木しげまさ通信

温故考新



未来への挑戦 そして責任

発行人 鈴木重正
三沢市松園町1-11-3
Tel.0176-53-2409
第007号

◆ 三沢市制施行60周年、明治150年の節目の年である平成30年も早いもので折り返して7月に入り、昭和43年6月生まれの私も人生50年の節目を迎えました。いつの頃からか人生は100年時代と呼ばれてようやく人生の折り返し、まだまだ若輩者であります。決してぶれることなく歩みを進めていきたいと思えます。皆様、ご指導ご鞭撻の程今後ともよろしくお願い致します。

◆ 来年には元号が変わり新しい時代を迎えることとなりますが、新しい時代は、人口減少・少子高齢化が進み、私たちが経験したことのない厳しい時代になっていくことが予想されます。その状況を「なんとかなるさ」と根拠もない自信を持ったり、「自分たちには関係ない」「誰がやっても同

じだろ」と樂觀的に考えることはできません。また、「何をやるでも無駄だろう」「駄目だ、もう終わりだ」と悲觀的になることもありません。大切なことは、現状・課題から決して目をそらすことなく、みんなが共通の認識として捉えて、次代を担う子どもたち・孫たちのために、新しい時代をしっかりと考えて行動していくということ。

◆ 「温故考新」、故きを温ねれば、三沢市が築き上げられてきた歴史の中で大きなポイントとなるのが三点、①150年前に明治という新しい時代を迎えて、元々この地域に住んで農業を営んでいた人たちが約100戸に増えて、海岸沿いに漁業を営む人たちが約100戸移住、更に、全く異なった文化を持った旧会津藩士が約100戸移住してきて、わずか数年の間に戸数が3倍になったこと。

②明治27年に古間木

◆ 駅が開業したこと。③昭和20年終戦を迎えて旧海軍の三沢飛行場が米軍に接収され、翌年から米軍基地の建設工事が始まったこと。

◆ この歴史が示していることは、①三沢は元々農業、漁業等の第一次産業が基盤であるということ。これが現在でも続いており、農業（畜産含む）では、農林水産省東北農政局発表の平成28年東北管内の市町村別農業算出額上位30市町村によれば、青森県では弘前市が435億円、東北1位、十和田市が252億円で東北7位と2市がベスト10入り。そして我が三沢市は216億円で東北12位、全国でも69位にランクインしています。

◆ ②駅と飛行場を有してこの地域の交通の拠点であるということ。更に高速道路へのアクセスも良く、地方都市としては交通の利便性が極めて高いのが三沢市です。

◆ ③終戦後、基地と共に発展してきたということ。現在も「基地との共存共栄」を掲げて「基地のまち」と言っても過言ではありませぬ。

◆ これらは三沢市の大 きな特色、魅力、財産です。この他にも、先人が守ってきた「三沢」が太平洋や小川原湖、仏沼などの豊かな自然があつて、築いてきてくださった文化的な都市（まち）があつて、

◆ 育ててきてくださった優秀な人材があります。これらの財産に磨きをかけていく、磨き方を工夫してみる、新しい使い方を考えることによって、厳しい時代にあつても、特色を活かした持続可能な魅力ある三沢をつくらせていくことができることを確信しています。

しげまさ日記

地域と共に！

お花見会

桜の季節を迎えて、平成30年4月26日には海上自衛隊八戸航空基地観桜会に、翌27日には海上自衛隊大湊地方総監部観桜会に参加させていただきました。

◆
そして4月29日には毎年恒例となった八重咲会のお花見会を皆さんのご協力によって今年も南山の特設会場で行うことができました。参加いただいた皆さん、お手伝いいただいた皆さん、本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

◆
毎年なのですが、お花見会を計画して一

番気をもむのが当日の天気です。確か一昨年は雨、昨年は雨の中で準備をして始まる直前に雨が止みホッとしたのを覚えています。さて今年は何？一週間前から毎日天気予報とにらめっこ、雨が降らないことを祈ります。みんなの祈りが通じたのか、当日はこれ以上ない晴天に恵まれて絶好のお

花見日となりました。晴天に恵まれたこともあって、スタッフも含めて参加者はこれまでで最高の約1200人、皆さんと最幸の一日を過ごすことができました。ありがとうございます。



◆
桜の花言葉は「精神の美」だそうで、アメリカの初代大統領ジョージ・ワシントンが子どものときに誤ってお父



◆
さんが大切にしていたサクラの木を切ってしまった、それを正直に告白したという話しに由来しているとか。いつまでも美しい心を持ち続けたいものです。

命の授業

◆
本通信で何度か紹介している腰塚勇人先生の「命の授業」が、5月21日に青森県立三沢高等学校で全校生徒を対象に、翌22日に三沢市立木崎野小学校で5年生・6年生を対象に

◆
高校と小学校での「命の授業」。ポイントも同じでも、その切り口や伝え方、雰囲気は異なり、どちらも生徒・児童たちとしっかりと向き合って命の大切さを真剣に伝えます。三沢高校では全校生徒・教職員・保護者の方など約800人が、木崎野小学校では約200人が、腰塚先生の実体験に基づいた真実の言葉に聞き入っていました。

た。「命の授業」を聞いても何も変わらないかも知れません。でも、「命の授業」を聞いて救われる命があるかも知れません、傷つかなくてもよい心があるかも知れません。三沢市でもより多くの子どもたち、親・大人たちに聞いてほしいと思います。

◆
腰塚勇人氏が伝える「5つの誓い」

『口』は、人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう。

『耳』は、人の言葉を最期まで聴いてあげるために使おう。

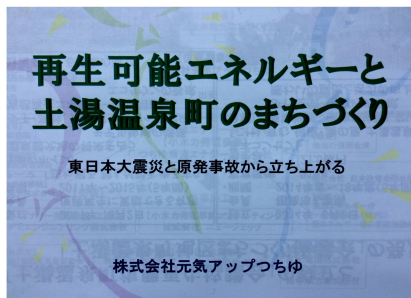
『目』は、人のよいところを見るために使おう。

『手足』は、人を助けるために使おう。

『心』は、人の痛みがわかるために使おう。

北東北小水力利用推進協議会

縁あって理事に名前を連ねさせていただいている「北東北小水力利用推進協議会」の通常総会・記念講演会・交流会が5月24日に、秋田県鹿角市で開催されました。同協議会は北東北の自然環境に適した小水力発電を地域や地域産業の活性化のために活用できないかと考え北東北地域の方々と共に学び実践的な検討をしていく場として設立されています。



◆
記念講演は、福島県福島市土湯温泉町の株式会社元氣アップつちゆ取締役社長加藤勝一氏による「再生可能エネルギーと土湯温泉町のまちづくり」を拝聴。再生可能エネルギー事

業（小水力発電事業、温泉を活用したバイナリー発電事業、バイナリー発電後の熱水を2次利用したオニテナガエビ養殖事業）等を通して町の活性化に取り組む姿を学びました。

◆
その後行われた交流会では、同協議会の西村会長、古家副会長、青森大学の柏谷教授、講演の講師を務められた加藤氏、小岩井農場の特別顧問でもあったNPO法人環境パートナーシップいわて代表理事の野澤氏と同一テ

チャリティーライブ

◆
5月27日きさん三沢にて行われた、国際ソロプチミスト三沢第2回チャリティーライブ「モモ&AKIRA」に行ってきました。

◆
モさんとAKIRAさんのお二人、「ハナミズキ」や「上を向いて歩こう」などのカバー曲やオリジナル曲を披露。モさんの伸びやかで美しい歌声、AKIRAさんの軽快なパーカッションの音色に約200人の聴衆が魅了されました。

◆
チャリティーライブの収益金は、来春オープン予定の三沢市子ども館の図書費用に充てられるそうです。また、会場入口では、三沢高校のSクラブの皆さん



サイカチの木

◆
サイカチの木って知っていますか？マメ科の落葉高木で、先人の知恵として戦後までその実（さや）は洗剤として活用されて、現在でも漆器の洗剤として使われているそうです。また、豆果は生薬で去痰薬、利尿薬として用いるそうです。



◆
6月2日、八戸市内のホテルで行われた「平のサイカチ」青森県天然記念物指定記念祝賀会に出席しました。本祝賀会は、階上町平野家所有の町天然記念物「平野家のサイカチ」が本年4月に「平のサイカチ」として県の天然記念物に指定された

◆
のを記念して開催されたものです。このサイカチは、何と推定樹齢800年以上、幹周合計6・4mで日本第4位の古木・巨木だそうです。これまで守り育ててこられた皆様から敬意を表しますとともに、これからも後世につなげていくことをお祈り致します。県天然記念物指定誠におめでとございます。

三沢の未来を語る

◆
私の50歳の誕生日でもある平成30年6月23日、三沢市議会議員西村盛男氏・遠藤泰子氏をゲストにお招きして、「鈴木重正と語る三沢の未来」をテーマとした集会（主催：三沢の未来を創るわこうどの会）を松園町一丁目集会所において開催させていただきました。



◆
日本では急速に人口減少・少子高齢化が進んでいます。三沢市も例外ではなく、この10年間で約3300人も減少して人口はついに4万人を割り、高齢化率も年々増加しています。人口減少・少子高

◆
齢化が進んでいくと、地域では、経済規模の縮小、行政サービスの低下、生活関連サービスの縮小、コミュニティの機能低下や公共交通の縮小など様々な問題が生じてくるのが予想されます。

◆
新しい時代を迎えるにあたって、次代を担う子ども・孫たちのために、共通の認識を持つてその対応を考えてい

◆
かなければいけない、そういう想いから皆さんと三沢の未来を語る機会を設けさせていただきました。私からは、現状などを説明するとともに、子どもたちを増やしていくためには、市民全体の健康寿命を延ばしていくためには、行政サービスを低下させないためにはどうすればよいのか。という視点を考えの中心に据えて、三沢の未来をしっかりと考えていきたい旨のお話をさせていただきました。

◆
西村議員からは、三沢市の今後10年間の進むべき道を指し示す「第二次三沢市総合振興計画」の内容や教育